

東奥日報

2019年(令和元年)12月17日(火曜日) (12)

航空宇宙産業 身近に

八工大でセミナー 技術者ら講演

八戸

航空宇宙産業に興味を持つてもらおうと、八戸市と県航空宇宙産業研究会は11日、八戸工業大学で航空機産業集積促進セミナーを開いた。大学生や周辺市町村職員ら約70人が参加し、県

内外で航空機産業に従事する技術者らの話に聞き入った。セミナーでは、日本初の民間月面探査を目指すベンチャー企業「ispace(アイスペース)」(東京)の大谷和彦さんが基調講演。同社が米財団の月探査コン



航空機産業の魅力について講演したセミナー

テストにチーム「HAKU TO」として参加し得た経験や、2040年には月面に千人が住み年間1万人が訪れるようになる」との月面都市構想を解説した。

このほか、県内で航空・宇宙関連部品などの製造を手掛ける同市の「セイシンハイテック」、五戸町の「東北三吉工業」と「橋機工」の3社の代表者を交えたパネルディスカッションが行われた。市産業労政課の担

当者は「県内に宇宙開発を支える企業があることはあまり知られていない。学生たちには成長産業である宇宙事業も将来の選択肢に考えてほしい」と話した。

(高松拓輝)